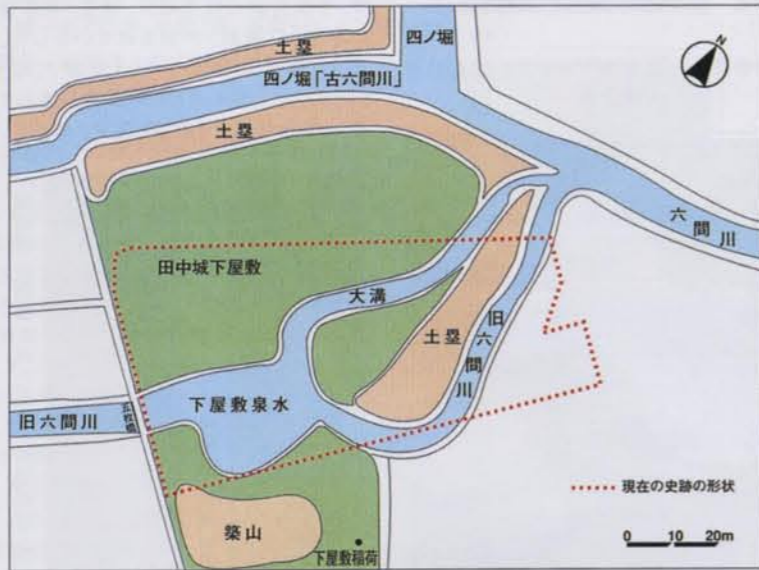


下屋敷庭園跡

江戸時代後期の田中城絵図によると、下屋敷には築山や泉水、茶屋や稲荷社がありました。築山は四季を通じて景色よく、泉水には多くのカキツバタが生えていたといわれます。しかし、明治・大正・昭和と時代が移るにつれて下屋敷の姿も変わりました。南側にあった築山は平らにされ、泉水も埋められて畑となりました。さらに、六間川の改修によって下屋敷跡は昔の半分程の広さになりました。



亀石

江戸時代後期、下屋敷には鶴石と亀石が置かれていたと伝えられています。鶴石の所在は不明ですが、昭和42年六間川水路改修工事の際に大小2つの亀石が発見されました。大きいほうの亀石はかつて下屋敷庭園内・中ノ島の西側岸辺に土留め(護岸)の大石として泉水に浸かって置かれていたようです。



整備の概要

明治維新後、田中城は廃城となり、城跡と建物は民間に払い下げられました。昭和32年に田中城跡は市の指定史跡となりましたが、その後宅地化が急速に進んだため、昭和60年に「田中城保存整備基本構想」が策定され、昭和62年から田中城跡の保存整備事業が始まりました。

下屋敷跡については、平成2年に発掘調査が行われ、平成4年から7年にかけて用地買収や庭園の復元整備、関連建物の移築復元、駐車場の造成などを行いました。平成8年8月1日に史跡田中城下屋敷としてオープンしました。

【面積：史跡田中城下屋敷4,552㎡・駐車場1,542㎡】

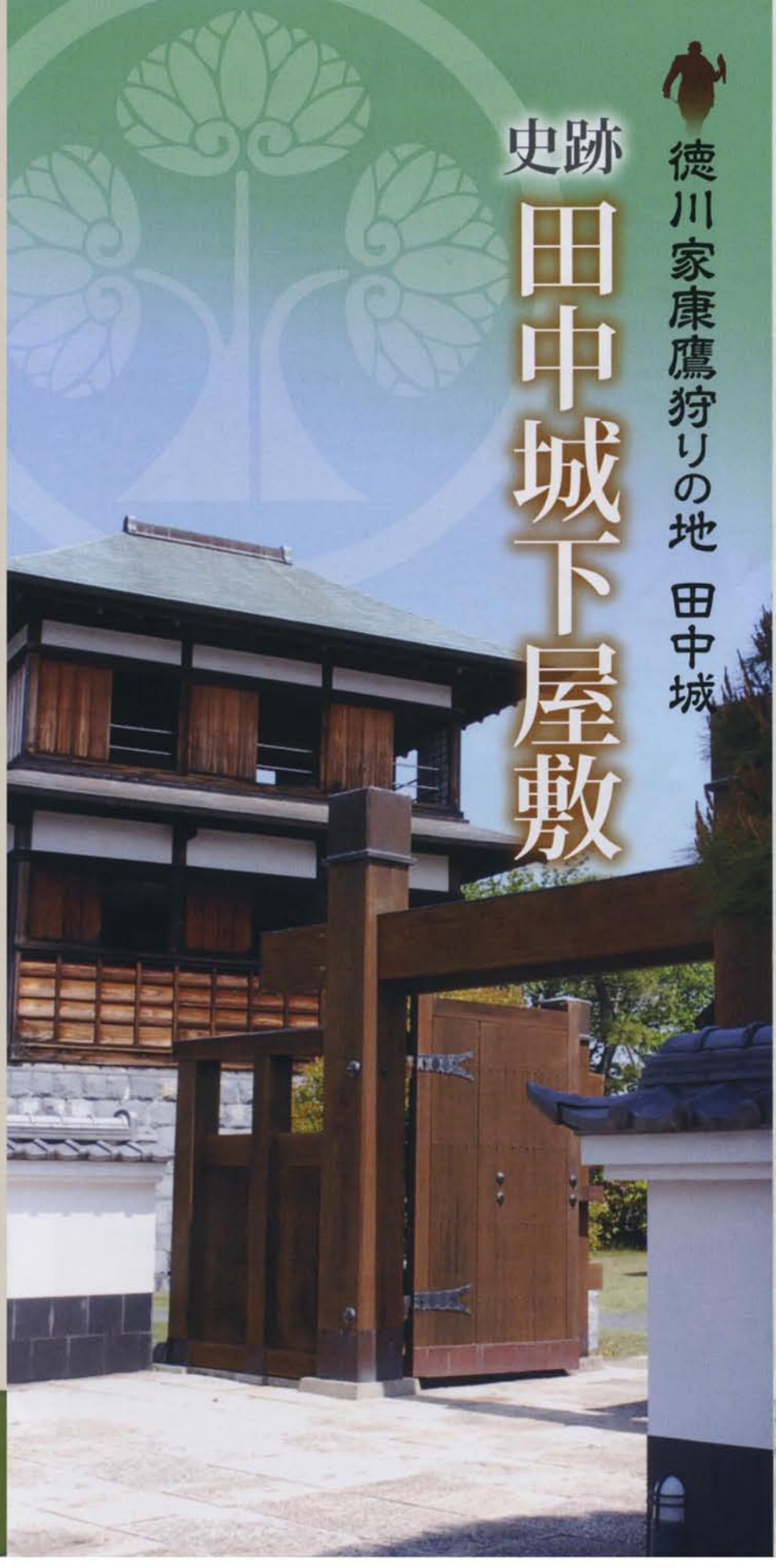
入場ご案内
開場時間 午前9時～午後5時
休場日 月曜日
祝休日の翌日
年末年始(12/28~1/4)
臨時休業日
入場料 無料

お願い
・建物や植物等を傷めないで下さい。
・場内での火気使用はできません。
・危険物や動物の持ち込みはできません。
・募金や物品の販売はできません。
・夜間および休場日は、機械整備を行っておりますので、絶対に入らないで下さい。
・自転車・自動車等は南側の専用駐車場をご利用下さい。
・ゴミは各自で持ち帰りましょう。



交通案内
○JR西焼津駅よりバス(五十海・大住線)「六間川」バス停下車 徒歩4分
○JR西焼津駅よりバス(藤枝市自主運行バス・城南平島線)下屋敷入口バス停下車 徒歩1分
○自動車は国道1号大手交差点を南東へ1.2km 駐車場あり

史跡田中城下屋敷
〒426-0012 静岡県藤枝市田中3丁目14番1号 TEL 054-644-3345
藤枝市郷土博物館・文学館 〒426-0014 静岡県藤枝市若王子500番地 TEL 054-645-1100



史跡 田中城下屋敷

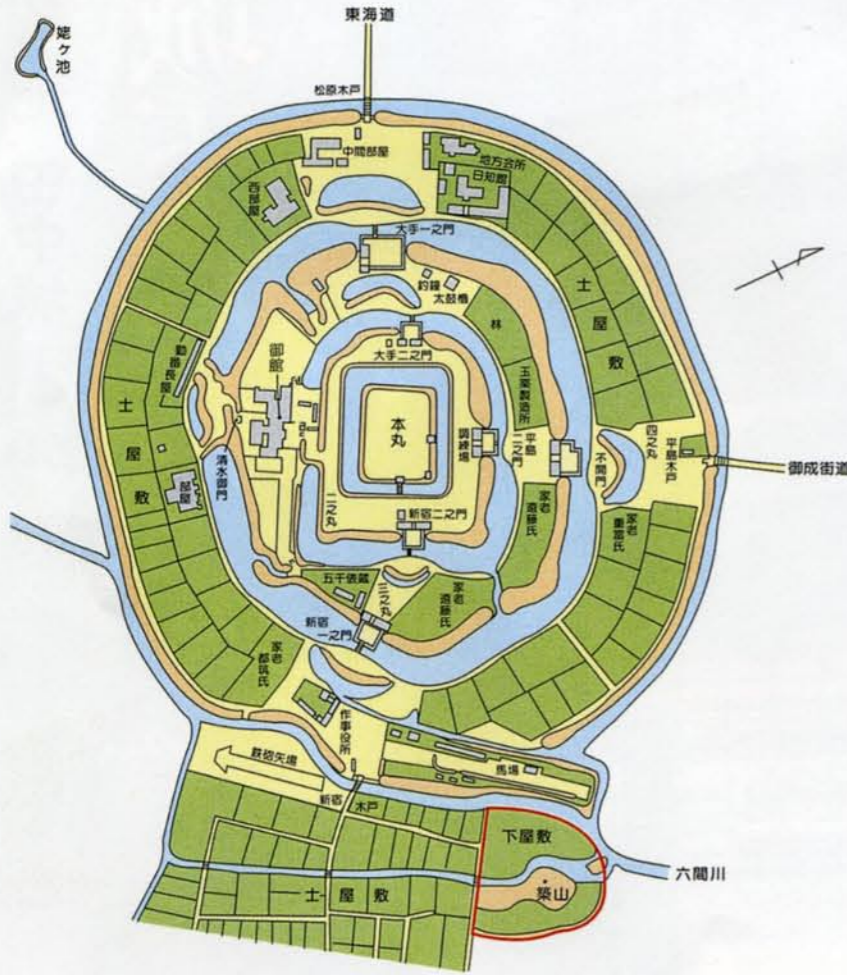
徳川家康鷹狩りの地 田中城

史跡田中城下屋敷

田中城は、今から500年ほど前、この地の豪族・一色氏が今川氏の命を受けて、その屋敷を拡大して城としたのがその始まりだといわれています。その後、武田氏の手に落ち、さらに江戸時代になってから四ノ堀が増設されて、直径およそ600mの全国的にも珍しい同心円形をした城ができあがりました。現在、市立西益津小学校が建っている場所がかつての本丸で、江戸時代には4万石程度の譜代大名が城主となって、志太平野の村々を治めていました。しかし、明治維新によって、田中城は廃城となり、城跡も民間に払い下げられました。

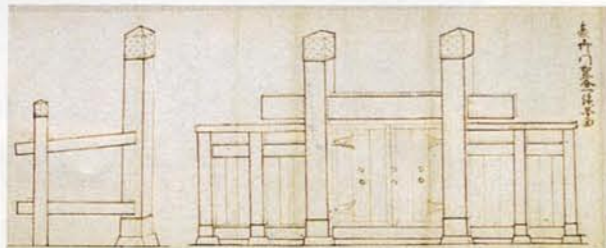
田中城の南東隅にあたるこの下屋敷跡は、一色氏やその後裔の古沢氏の屋敷跡だとも伝えられています。しかし、江戸時代後期には城主の下屋敷(別荘)が置かれ、築山・泉水・茶屋等を設けて四季の景色を楽しんだともいわれています。

平成4年度から8年度にかけて、下屋敷跡の庭園を復元するとともに、田中城にゆかりのある当時の建物をここに移築・復元しました。城にあった建物の実物が現在まで残されることは珍しく、歴史的価値の高い貴重な文化財といえます。



冠木門

入り口の門は、二十分の一の縮尺で描かれた当時の図面をもとに復元したものです。



田中城本丸櫓

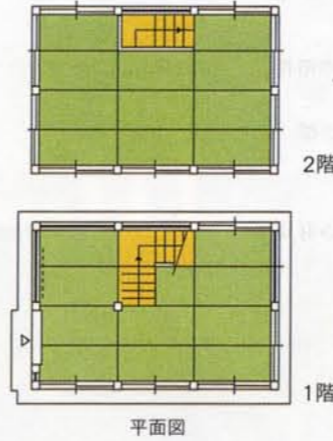
Turret of Tanaka Castle

- ◆市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ◆構造 一木造・2階建銅板葺
- ◆規模 一桁行3間・梁間2間(京間・46.57㎡)
- ◆寄贈者 藤枝市本町2丁目8番43号 村山晴美

この櫓は、もと田中城の本丸にあり、高さ9尺(約2.7m)の石垣の上に建っていたといわれます。本丸の南東隅の石垣上に「御亭」と呼ばれる2階建の建物のあったことが記録にみえ、これに該当するもののようです。

明治維新によって、田中城には高橋伊勢守政晃(泥舟)が入りました。村山氏はその配下であり、しかも泥舟の4男を養子とした関係で、明治3年この櫓の払い下げを受け、移築して住居としました。また、泥舟はこの建物を「光風舞月楼」と名付け扁額を掲げています。屋根はもと柿葺であったようです。

田中城内より移築した建造物のなかで、昔から最もよく知られている建物です。

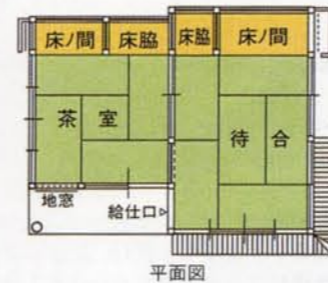


茶室

Tea ceremony house

- ◆市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ◆構造 一木造平屋瓦葺
- ◆規模 一23.1㎡
- ◆寄贈者 藤枝市藤枝4丁目1番15号 奥野まき

この茶室は、明治38年頃、干蔵の村松家にあったものを上馬の奥野氏が譲り受け、屋敷内に移築・改造したといわれています。もとは田中藩家老の茶室であったと伝えられていますが、下屋敷の庭内にあった「茶室」とみられます。建物はきゃしゃな造りの数寄屋建築で、西側の四畳半の間が茶室、東側には給仕口のついた六畳の待合が接続しています。



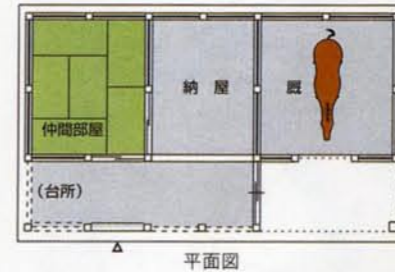
仲間部屋・厩

Footman's house with a stable

- ◆市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ◆構造 一木造平屋瓦葺
- ◆規模 一間口4間5尺・奥行2間7尺(40.52㎡)
- ◆寄贈者 藤枝市大洲2丁目20番11号 大塚清賢

大洲村の大塚家にある長屋門は田中城内より移されたといわれてきましたが、調査の結果、長屋門に付設された納屋がそれだと分かりました。

仲間部屋と厩とを1棟に仕立てた建物で、手前右側の鬼瓦には、城主・本多家の家紋(立葵紋)が刻まれていました。また、解体にあたって、「安政六年」(1859年)と書かれた板材が見出されており、建築年代もその頃と推定されます。



長楽寺村郷蔵

Granary of Chorakuji Village

- ◆市指定有形文化財(平成5年4月26日指定)
- ◆構造 一木造真壁造・平屋瓦葺
- ◆規模 一間口4間3尺・奥行3間4尺(42.96㎡)
- ◆寄贈者 藤枝市本町1丁目14番4号 中西真太郎



郷蔵とは、年貢米や飢饉に備えた非常(救済貸付)米を保存するための蔵で、江戸時代には村ごとに置かれていました。村役人が管理しており、夜間は畳敷の小部屋に2人組で泊まりこみ、夜番をしました。

長楽寺村の郷蔵は、明治10年頃に中西家に払い下げられました。この時、郷蔵の半分を切りとり移築したものとされ、本来は現状の倍の大きさであったとみられます。

長楽寺村郷蔵は、市内に現存する唯一の郷蔵であり、貴重な建築物です。また、建替した時の年月と村役人(庄屋)の名が柱に書き付けられています。「天保十四卯歳九月建替 長楽寺村 庄屋恵助(1843年) 同断 八郎右衛門」

